

ドクター・ハザマの



# バイタルサイン塾 44

## 薬剤師の職能拡大は結果であって目的ではない

ファルメディコ株式会社  
大阪大学大学院医学系研究科生体機能補完医学講座  
医師・医学博士 狭間 研至

### 健康のためなら死んでもいい？ 手段と目的、目的と結果は取り違えない

薬剤師法第25条の2の変化はあらためて、薬剤師にとってバイタルサインという知識や手技は、目的ではなく手段であることを明快に示したのだと思います。

私たちが、毎日生活している中で、この目的と手段の取り違え、または目的と結果の混同は、しばしば見られます。例えば、誰しも健康になりたい、元気で過ごしたいと思ってダイエットやフィットネスに取り組むわけですが、時と場合によっては、体重を落とすことや体を必死に動かすことそのものが目的化してしまうことがあります。

「健康のためなら死んでもいい！」というのは、ある意味、ブラックジョークだと思いますが、そもそも、何のために痩せようと思ったのか、何を目的に走った

り体を鍛えたりしようと思ったのかを考えると、鏡に映る自分の姿に愕然とすることがあるのかも知れません。

ただ、私がこの数年危惧してきたのは、薬剤師の職能拡大や臨床現場への参画が、ともすれば、この手段と目的、さらには、目的と結果がきれいに入れ替わって捉えられ、考えられてしまうことでした。

### 職能が拡大したように見えた瞬間 モチベーションは急速に下がる

例えば、バイタルサインを薬剤師が駆使して薬学的専門性に基づいて患者さんの状態を判断し、それらを医師や看護師、患者やその家族、介護者にフィードバックしていくという光景は、まさに薬剤師の職能拡大そのものです。

現状の「袋詰め」といわれることもある、狭義の「調剤」業務にほとんど嫌気がさしている薬剤師にとっては、まぶしく見えることもあるでしょう。いろいろな障壁はあるでしょうが、そこを目指していこうと決意を固めて立ち向かっていくことはすばらしいことです。

しかし、薬剤師の職能拡大は、結果であって目的ではないと思っています。もし、それが目的であるとするれば、薬剤師の職能が拡大したように見えた瞬間に、薬剤師にとってのモチベーションは急速に下がってしまうかも知れません。何より薬剤師の職能拡大は、薬剤師にとっての関心事であり、ムーブメントが起こったとしても、それはコップの中の嵐にしかすぎず、ヒト・組織・社会の変革という「イノベーション」にはつながっていかないのではないのでしょうか。

